

21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター および各研究員の活動記録

1. 共同企画

- 1) 東洋大学 HIRC21 & 翰林大学応用心理研究所 第 5 回共同セミナー

日時：2014 年 12 月 20 日（土）13:00-18:00

場所：東洋大学白山キャンパス

- 2) グループダイナミクス学会 & 東洋大学 HIRC21 共催 招待講演

【招待講演 1】 第 61 回大会 1 日目(9 月 6 日)13:45-15:15

It Takes Two Hands to Clap: Collectivistic Independence Promotes Group Creativity

講演者 Hoon-Seok Choi (Sungkyunkwan University, Republic of Korea)

【招待講演 2】 第 61 回大会 1 日目(9 月 6 日)16:00-17:30

社会心理学と平和構築：大量虐殺後のルワンダにおける和解と癒しの試み

講演者 南 昌廣 (ブリティッシュコロンビア大学/PFR-森田平和和解研究所)

【招待講演 3】 第 61 回大会 2 日目(9 月 7 日) 10:00-11:30

On the Usefulness of Experience-Sampling for the Understanding of Self-control, Morality, and Power in Daily Life

講演者 Wilhelm Hofmann (University of Cologne)

- 3) グループダイナミクス学会 & 東洋大学 HIRC21 共催 日韓若手研究者インタラクションプログラム

【特別ワークショップ】 第 61 回大会 2 日目(9 月 7 日)13:00-15:00

個人と集団のダイナミクス

話題提供者 Hyun Euh (成均館大学)

話題提供者 Jeong Gil Seo (成均館大学)

話題提供者 井上裕珠 (一橋大学)

話題提供者 鷹阪龍太 (東洋大学)

- 4) 社会行動研究会 & 東洋大学 HIRC21 共催 研究会

【第 162 回】 2014 年 2 月 28 日（金）16:00-17:30

「制度としての文化」

発表者 山岸俊男 (東京大学)

【第 163 回】 2014 年 4 月 26 日(土) 16:00-17:30

「自己高揚と自己卑下：モチベーション維持戦略という視点から」

発表者 尾崎由佳 (東洋大学)

【第 164 回】 2014 年 6 月 7 日(土) 16:00-17:30

「日本における犯罪心理学の現在と今後」

発表者 桐生正幸 (東洋大学)

【第 165 回】 2014 年 8 月 8 日（金）15:00-18:00

「誰かのためにがんばる自分—他者志向性が課題への内発的動機づけに及ぼす影響」

発表者 村田光二 (一橋大学)

「資源の分割容易性と分配への期待が妬みに及ぼす影響」

発表者 井上裕珠（一橋大学大学院）

【第 166 回】 8 月 18 日（月）11:00-18:00

「マルチレベルモデリング講習会」

発表者 清水裕士（広島大学大学院総合科学研究科 助教）

【第 167 回】 10 月 25 日（土）15:00-18:00

「自由意志信念の概念的フレームワーク」

発表者 渡辺 匠（東京大学）

「犯罪被害者のための正義：新しい司法制度の効果測定」

発表者 白岩祐子（東京大学）

「勢力感が人々の罰や許しの動機づけに与える影響」

発表者 橋本剛明 先生（東京大学）

【第 168 回】 12 月 12 日（金）15:30-18:00

「霊長類における行動のプランニングおよび実行の神経メカニズム」

発表者 中山義久（公益財団法人東京都医学総合研究所 前頭葉機能プロジェクト）

「他者の感覚、情動を推測するミラーメカニズム」

発表者 石田裕昭（公益財団法人東京都医学総合研究所 前頭葉機能プロジェクト）

【第 169 回】 2 月 21 日（土）15:00-18:00

「ユニークな名前は増加しているか？日本文化における個性追求と個人主義化」

発表者 荻原祐二（京都大学）

「文化の単位と心・文化の相互構成—地域住民の信頼に焦点を当てた社会調査—」

発表者 福島慎太郎（京都大学）

2. 論文

Cheong, Y.G., Rie, J., Ando, K., & Fukuoka, Y. (in press). Risk reporting and the crisis of journalists. *Korean Journal of Broadcasting & Telecommunications Research*.

朴 喜静・大坊郁夫 2014 個人特性が嘘をつくときに表われる非言語行動に及ぼす影響 応用心理学研究, 39(3), 215-224.

大坊郁夫 2014 場を活性化するコミュニケーション 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 11 号, 71-75.

Ken Fujiwara & Ikuo Daibo 2014 The extraction of nonverbal behaviors :Using video images and speech-signal analysis in dyadic conversation *Journal of Nonverbal Behavior*,38,377-388.

朴 喜静・大坊郁 2014 怒りと悲しみが真偽性判断の正答率に及ぼす影響 応用心理学研究, 40(1), 1-10.

月田有香・高嶋和毅・横山ひとみ・市野順子・伊藤雄一・大坊郁夫・北村喜文 2014 即興劇（インプロ）によるコミュニケーショントレーニングが集団討論場面に与える影響 電子情報通信学会技術研究報告, 114(67), 193-198.

横山ひとみ・大坊郁夫 2014 対面説得事態での送り手の非言語行動の検討 応用心理学研究, 40(2), 93-101.

清水裕士・大坊郁 2014 潜在ランク理論による精神的健康調査票(GHQ)の順序的評価 心理学研究,

85(5), 464-473.

上出寛子・田中共子・堀毛一也・藤森立男・大坊郁夫 2014 well-being の心理学～今、そしてこれからの well-being 研究の応用・実践～ 応用心理学研究,40、106-137.

大坊郁夫 2015 感情研究の彼岸はどこにある？—感情心理学は新たな科学として飛翔する— 感情心理学研究, 22(2), 89-93.

大坊郁夫 2015 Well-being を目指す対人コミュニケーション研究 モチベーション研究,4, 1-10.

Go Endo, Hirokazu Tachikawa, Yoshiharu Fukuoka, Miyuki Aiba, Kiyotaka Nemoto, Yuki Shiratori, Yutaka Matsui, Masafumi Doi, & Takashi Asada 2014.5 How perceived social support relates to suicidal ideation: A Japanese social resident survey. *International Journal of Social Psychiatry*, 60(3) 290-298.

福岡欣治 2015.3 日常ストレス経験に伴う親友からの肯定的および否定的相互作用と心理的健康—ペア・データを含めた検討— 川崎医療福祉学会誌, 24(2), 印刷中.

福岡欣治 2015.3 他者依存性とソーシャル・サポートが心理的健康に及ぼす影響—大学生の友人関係における実際のサポート授受に注目して— 川崎医療福祉学会誌, 24(2), 印刷中.

堀毛一也 2014 持続可能な well-being をどう目指すか 日本応用心理学会公開シンポジウム 2013 Well-being の心理学～今、そしてこれからの well-being 研究の応用・実践～ 応用心理学研究,40,2,120-127.

堀毛一也・大島尚 2015 サステナブルな心性・行動と主観的 well-being の関連について—web 調査による分析結果 東洋大学・エコフィロソフィ研究, 9.(印刷中)

大島尚・堀毛一也 2015 環境問題とコミュニティ意識—社会関係資本からの検討— 東洋大学・エコフィロソフィ研究, 9.(印刷中)

角山剛 2014.4 組織行動をめぐる最近の研究動向 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報第 11 号, p.13-16.

Kato, T. (2015). Burnout as a Risk Factor for Strain, Depressive Symptoms, Insomnia, Behavioral Outcomes, Suicide Attempts, and Well-Being among Full-Time Workers. T. N. Winston (Ed.), **Handbook on Burnout and Sleep Deprivation: Risk Factors, Management Strategies and Impact on Performance and Behavior**. NOVA Science Publishers.

Kato, T. (2014). Testing the sexual imagination hypothesis for gender differences in response to infidelity. **BMC Research Notes**, 7:860. DOI: 10.1186/1756-0500-7-860. PMID: 25432800

Kato, T. (2014). Relationship between coping with interpersonal stressors and depressive symptoms in the United States, Australia, and China: A focus on reassessing coping. **PLoS ONE**, **9(10)**: e109644. DOI: 10.1371/journal.pone.0109644. PMID: 25299135

Kato, T. (2014). Effects of flexibility in coping with chronic headaches on depressive symptoms. **International Journal of Behavioral Medicine**, **first published online: September 18**. DOI: 10.1007/s12529-014-9443-1. PMID: 25231548

Kato, T. (2014). A reconsideration of sex differences in response to sexual and emotional infidelity. **Archives of Sexual Behavior**, ***43**, 1281-1288. DOI: 10.1007/s10508-014-0276-4. PMID: 24647817.

Kato, T. (2014). Coping with workplace interpersonal stress among Japanese employees. **Stress and Health**, first

published online: March 18. DOI: 10.1002/smi.2566. PMID: 24639236.

Kato, T. (2014). Development of the Sleep Quality Questionnaire in healthy adults. **Journal of Health Psychology, **19**, 977-986*. *DOI: 10.1177/1359105313482168. PMID: 23720542

Kato, T. (2014). Insomnia symptoms, depressive symptoms, and suicide ideation in Japanese white-collar employees*. *International Journal of Behavioral Medicine, **21**, 506-510*. *DOI: 10.1007/s12529-013-9364-4. PMID: 24136401.

Kato, T. (2014). Coping with interpersonal stress and psychological distress at work: Comparison of hospital nursing staff and salespeople. **Psychology Research and Behavior Management, 7**, 31-36. DOI: 10.2147/PRBM.S57030. PMID: 24470781.

久保ゆかり 2014 の過去経験について語ること (autobiographical narratives) の発達 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報、17-22

市村美帆・高田治樹・増野智彦・吉野美緒・稲本絵里・松井豊・横田裕行 2014 病院前救急診療活動を行う医師の精神的健康状態との関連 日本救急医学会雑誌、25,141-151.(2014 年 4 月)

高橋幸子・桑原裕子・松井豊 2014 東日本大震災で被災した自治体職員の急性ストレス反応 ストレス科学研究,29,60-67.

桑原裕子・高橋幸子・松井豊 2014 東日本大震災で被災した自治体職員の外傷後成長 筑波大学心理学研究,47,15-23.

山本陽一・松井豊 2014 中高生のボランティア動機、ボランティア活動の援助成果の探索的検討—感想文の内容分析を通して— 筑波大学心理学研究,47,37-45.

茨木詩織・松井豊 2014 悩みを相談したくてもできないときに 身近な人に求める接し方の検討 筑波大学心理学研究,48,19-28.

高本真寛・松井豊 2014 対人ストレス・コーピングがストレスの解決認知を媒介して精神的健康に及ぼす影響についての確証的検討 筑波大学心理学研究,48,29-35.

仲嶺真・松井豊 2014 街中での異性への話しかけへの態度 —行為者の印象、パーソナリティ、行動的検討— 筑波大学心理学研究,48,37-47.

水野剛也、「日系アメリカ人強制立ち退き・収容をめぐる日米プロパガンダ戦 第二次世界大戦時のラジオ・トウキョウと「人質」論の再考」、『メディア史研究』第 36 号 (2014 年 8 月) : 42~65。

Takeya Mizuno, “Press Freedom in the Enemy’ s Language: Government Control of Japanese-Language Newspapers in Japanese American Camps during World War II,” Association for Education in Journalism and Mass Communication (AEJMC), National Convention, Montreal, Canada, August 7, 2014. (Acceptance Rate: 50.8%)

西野理子「追跡パネル調査の改善に向けて：全国家族パネル調査の経験より」 『中央調査報』 No.683 : 1-7.

大島 尚 (2014) 社会的ジレンマにおける「監視ボランティア」の可能性と有効性 東洋大学「エコ・フィロソフィ」研究, Vol.8, 77-93.

堀毛一也・安藤清志・大島尚 (2014) 社会的逆境後の精神的回復・成長につながる資源—ポジティブ心理学的観点を中心に— 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報 第 11 号 3-8.

Yuko Suda(2014) Changing relationships between nonprofit and for-profit human service organizations under the long-term care system in Japan.(Refereed) *Voluntas*, 25: 1235 - 1261.

須田木綿子・児玉寛子(2014) 高齢者と家族介護者の精神的健康（査読あり）*老年社会科学*, 36(1), 34-38, 2014.

古城隆文,・谷口尚子「選挙制度が有権者の満足度を与える影響の国際比較分析」『東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報』Vol. 11, 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター,pp. 51-70, 2014年.

谷口尚子「政治学における実験研究：概要と展望」『選挙研究』第30巻1号, 日本選挙学会, pp.5-15,2014年.

戸梶亜紀彦「感動体験を応用したワーク・モチベーションの効果的向上について」モチベーション研究（モチベーション研究所）, Annual Report 第3号, 48-56. 2014年3月。

山本須美子「オランダにおける中国系第二世代の社会統合——ライフヒストリーの分析から」『移民政策研究』7, 査読有、（採録決定済）、2015年。

Yamamoto, Sumiko 'School Success and Failure: Changes seen in children of Chinese descent in Paris', *Journal 華人とは何か?華人3世、2世、1.5世の語りから見る在日華人意識の変容 of Chinese Overseas* 11-1, 査読有、（採録決定済）、2015年。

山本須美子「オランダにおける文氏宗親会の現状と役割」『東洋大学アジア文化研究所研究年報』50: 219-232, 査読無、（印刷中）、2015年。

山本須美子「EUにおける「新しい」中国系コミュニティの特徴——イタリア・ハンガリー・ドイツの場合」『東洋大学社会学部紀要』52(2)、（印刷中）、2015年。

3. 著書

安藤清志 (2014). 自己呈示と対人関係：「自己と対人関係の社会心理学」の視点から 社会心理学研究の新展開 北大路書房 Pp.10-25

大坊郁夫 2014 場を活性化する：対人コミュニケーションの社会心理学 高木修監修 大坊郁夫・竹村和久編 「社会心理学研究の新展開—社会に生きる人々の心理と行動」 第2章,26-39. 北大路書房

堀毛一也 2014 パーソナリティと状況 唐沢かおり（編）新・社会心理学(pp.71-91) 北大路書房

堀毛一也 2014 状況と性格 下山晴彦（編集代表）誠信心理学辞典 新版(p.333-335) 誠信書房

角山剛 共著 心理学検定公式問題集 2014年度版 2014.3 実務教育出版, p.356-383.

角山剛 共著 2014.9 動機づけ心理学はどのように活用されているか 金子書房

松井豊 2014 思いやり行動をとる心の動き 日本心理学会（監）高木修・竹村和久（編）思いやりはどこから来るの？=利他性の心理と行動 誠信書房 103-116.

立脇洋介・松井豊 2014 恋愛 児童心理学の進歩 2014年版 日本児童研究所（監修）金子書房

水野剛也、『「自由の国」の報道統制 大戦下の日系ジャーナリズム』（吉川弘文館、2014年）。

4. シンポジウム

安藤清志 日本社会心理学会 2014年度第58回公開シンポジウム（指定討論）
「カルト問題とマインド・コントロール論再考—今なお幻想の彼方へ惹かれる若者たち」
2014年11月22日（土）フェリス女学院大学緑園キャンパス

大坊郁夫 2014 学校におけるリスク・マネジメント教育—必要か、可能か？— コメント 日本心理学会第78回大会シンポジウム 2014/9/12 同志社大学

大坊郁夫 2014 共生のためのコミュニケーション力を高める—対人社会心理学の視点から— 産業・組織心理学会第30回大会 シンポジウム「産業・組織心理学のアイデンティティ、可能性、社会的貢献：他の心理学領域視点から」 2014/9/13 北海学園大学

角山剛（指定討論者）公開シンポジウム「産業・組織心理学のアイデンティティ・可能性・社会的貢献：他の心理学領域の視点から」 2014.09.13 産業・組織心理学会第30回記念大会

久保ゆかり シンポジウム『社会性とその発達：ヒトの特徴と教育可能性を考える』における話題提供 「社会性とその発達—子どもの感情発達の視点から」 2014/9/10 日本心理学会第78回大会

西田公昭 日本社会心理学会の公開シンポジウム 「カルト問題とマインド・コントロール論再考—今なお幻想の彼方へ惹かれる若者たち」 話題提供

西田公昭 日本教育心理学会第56回大会自主大会シンポジウム 「学校における文化研究の新たな可能性」 指定討論

西田公昭 日本心理学会第76回大会自主シンポジウム 「大学生のリスクマネジメント」 話題提供

Yuko Suda (2014) “Nonprofit and for-profit operation under mixed economy: Mezzo-level organizational study approach.” The 9th Korea-Japan Symposium, 延世大学, 韓国, Oct. 17, 2014. (招聘)

須田木綿子（2014）「ニュー・ガバナンスの再帰的課題」日本学術会議主催学術フォーラム『ニューガバナンスの限界と社会的包摂』日本学術会議社会学委員会・経済学委員会合同：包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 2014年9月27日

戸梶亜紀彦「職場の文脈における動機づけと感情」日本パーソナリティ心理学会第23回大会広報委員会企画シンポジウム『感情と動機づけをめぐる』, 2014年10月4日（山梨大学）。

山本須美子 韓国朝鮮文化研究会 2014年10月25日（於：東洋大学）シンポジウム「ネーションと跨境——韓国・朝鮮の挑戦、生活の適応」：コメンテーター

山本須美子 日本華僑華人学会 2014年11月27日（於：早稲田大学）シンポジウム「華人とは何か？華人3世、2世、1.5世の語りから見る在日華人意識の変容」：コメンテーター

山本須美子 フランス教育学会 2014年9月6日（於：東洋大学）シンポジウム「移民の子ども教育政策と

学校適応をめぐる問題」における発表 中国系移民にみる学校適応・不適応一パリの学校でのフィールドワークから」

5. 講演

安藤清志

- 1) 原発被災の心理的影響—浪江町・県内避難住民の方々を対象にしたアンケート調査の結果から
2014年10月10日
第4回 浪江町復興まちづくり協議会

角山 剛

- 1) モチベーション・対人コミュニケーション ～ 元気な明日をめざして ～ (3D 教育研究会)
2014.3.1 (東京)
- 2) マネジメント・マインドの形成 (川越市小学校・中学校 10 年経験者研修)
2014.7.28 (川越市)
- 3) 産業・組織心理学のアイデンティティ・可能性・社会的貢献：他の心理学領域の視点から (産業・組織心理学会第 30 回記念大会記念シンポジウム)
2014.9.13 (北海学園大学)
- 4) "モチベーションの心理学 ～ワーク・モチベーションの理解とモチベーション・マネジメントの実践に向けて (コメディカル組織運営研究会)"
2014.10.5 (東京・立教大学)
- 5)モチベーションを考える手がかり (墨田区教育委員会・すみだ学力向上推進会議)
2014.10.10 (東京・墨田区)

桐生正幸

- 1) 「犯罪心理学から見た 街灯犯罪対策」
2014年6月26日
兵庫県南県民センター主催、地域防犯大会
- 2) 「子どもを犯罪からどう守る？」
2014年7月11日
静岡県労働者福祉基金協会主催、地域安全セミナー
- 3) 「犯罪心理学から見た被害者支援」
2014年9月17日
山形県主催、犯罪被害者支援担当者研修会
- 4) 「地域での防犯対策について」
2014年9月29日
神戸市主催、こうべまちづくり学校
- 5) 「犯罪心理学から考える学校安全」
2014年10月3日
全附 P 連 PTA 研修会主催、第5回全国大会

- 6)「子どもを守るため 次に何を行うべきか？」
2014年11月14日
兵庫県地域安全まちづくり審議会
- 7)「だましの犯罪心理学：次のターゲットはあなたかも」
2014年11月21日
尼崎市消費センター主催セミナー
- 8)「犯罪の起きにくい社会をつくるためには 犯罪心理学の視点から」
2014年11月28日
香川県主催、香川県地域防犯大会
- 9)「子どもの安全を守る 犯罪心理学の視点から」
2015年2月18日
兵庫県主催、兵庫県平成26年度地域安全まちづくりセミナー

松井 豊

- 1) 28th International Congress of Applied Psychology. 講演
2014年
- 2)平成26年度消防職員安全衛生研修会 消防職員惨事ストレス研修会
「消防職員の現場活動に係る惨事ストレス対策」(岐阜県消防長会事務局)
2014年7月1日 (岐阜県岐阜市)
- 3)和歌山県立医科大学保健看護学部「支援者の惨事ストレスのケアについて理解を深める」講師
2014年9月13日 (和歌山県和歌山市)
- 4)静岡県消防協会田方支部「消防団員災害救護ストレス研修」
2014年9月21日 (静岡県伊豆の国市)
- 5)2014年度医療イノベーション研究会「大規模災害時の医療スタッフのメンタルヘルスと離職対策」での講演
(医療職のための惨事ストレスケアと課題)
2014年10月5日 (東京 大井町)
- 6)独立行政法人科学技術振興機構・米国立科学財団
リスクコミュニケーション国際シンポジウムの講演(災害救援者の惨事ストレス) 講師
2014年10月16日 (東京 六本木)
- 7)福島県立磐城高等学校 SSH総合の時間 「恋愛について」
2014年10月 (同校)
- 8)横手市消防本部 平成26年度惨事ストレス研修 「消防職員の惨事ストレス」講演
2014年12月 (秋田県横手市)
- 9)平成26年度消防職員安全衛生研修会
消防職員惨事ストレス研修会「消防職員の現場活動に係る惨事ストレス対策」
2014年12月 (福島県楡葉町)
- 10)東京都立小石川中等教育校 模擬授業「東日本大震災の被災者の心理」講義
2014年12月

11)厚木保健福祉事務所 平成 26 年度自殺対策支援者研修会「惨事ストレスの基礎知識と対応」講演・実習
2015 年 1 月 (同市役所)

12)公益財団法人日本消防協会第 41 回消防団幹部特別研修「惨事ストレス対策」講演
2015 年 1 月 (東京都港区)

13)茅ヶ崎市消防本部メンタルヘルス研修「消防職員の惨事ストレス」講演
2015 年 2 月 (茅ヶ崎市)

戸梶亜紀彦

1)「感動のメカニズムとその効果 —感動体験を日々の中で生かすこと—

2014 年 6 月 28 日 (広島市立安佐市民病院)

地方独立行政法人 広島市立病院機構 安佐市民病院看護部研修会、

6. 研究交流会 (研究会)

大坊郁夫 持続可能社会にむけた知的情報空間技術の創出「知的情報空間プロジェクト講演会」(電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会)、招待講演「Well-being を目指す 対人コミュニケーション研究」 2014/10/23 東京農工大学

福岡欣治・田中恵子・中村健壽 2015.2.21 医事課職員のバーンアウトと患者・家族対応への意識—ソーシャルサポートを含めて— 第6回ストレス研究会 (主催: 広島大学総合科学部岩永誠先生)

水野剛也 白百合女子大学大学院、2014 年度オムニバス講義「『暴力』を文学する」
(コーディネーター: 桑井輝子)、第 6 回「『暴力』と『暴力表現』のあいだ
『ヘイト・スピーチ』の法規制を事例に考える」、白百合女子大学、2014 年 11 月 5 日。

西野理子 日本家族社会学会第 2 回家族社会学パネル研究会 (2014 年 9 月 5 日、東洋大学)

西野理子 日本家族社会学会第 3 回家族社会学パネル研究会 (2015 年 2 月 22 日、東洋大学)

須田木綿子 「日本における少子化対策の再検討」 福祉社会学会第 41 回研究会・討論者 平成 26 年 8 月

山本須美子 科研費基盤研究(B海外学術調査)研究課題「EU における移民第 2 世代の学校適応・不適応に関する教育人類学的研究」(研究代表者: 山本須美子、平成 24 年度~27 年度)のための研究交流会①
6 月 14 日~15 日 (於: 東洋大学熱海研修所)

山本須美子 科研費基盤研究(B海外学術調査)研究課題「EU における移民第 2 世代の学校適応・不適応に関する教育人類学的研究」(研究代表者: 山本須美子、平成 24 年度~27 年度)のための研究交流会②
7 月 19 日 (土) (於: 名古屋大学、東山キャンパス)

丸山 英樹先生

(文部科学省 国立教育政策研究所 国際研究・協力部 総括研究官 OECD-PISA 運営理事会 日本代表理事)

発表タイトル「欧州在住トルコ移民の人間形成と社会参加」

安達智史先生 (ロンドン大学教育学部訪問研究員、学振特別研究員)

発表タイトル「ロンドンの女性ムスリムの教育意識—家族、アイデンティティ」

山本須美子 科研費基盤研究(B海外学術調査)研究課題「EU における移民第 2 世代の学校適応・不適応に関する教育人類学的研究」(研究代表者: 山本須美子、平成 24 年度~27 年度)のための研究交流会③
2015 年 3 月 27 日~28 日 (於: 東洋大学熱海研修所)

7. 学会発表

堀毛一也・安藤清志・大島尚・高橋幸子・愈善英 (2014). 社会的逆境からの回復に関する基礎調査－(1)基礎概念と調査票の設計 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 272.

愈善英・高橋幸子・堀毛一也・安藤清志・大島尚 (2014). 社会的逆境からの回復に関する基礎調査－(2)性差の検討 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 274.

高橋尚也・安藤清志・福岡欣治・Rie Ju-Il・Yeon Goo-Cheong・松井 豊・井上果子・畑中美穂 (2014). 韓国におけるジャーナリストの惨事ストレスの実態 日本グループ・ダイナミックス学会第 61 回発表論文集,

Ken Fujiwara & Ikuo Daibo 2014 "Automated method for extracting nonverbal behavior in dyadic conversation: Using a thin slice technique." SPSP2014 15 Annual Meeting G204 2014/2/13-15, Austn, USA

藤原 健・毛 新華・木村昌紀・磯友輝子・大坊郁夫 2014 "小集団の集団的知性に関する一考察—課題解決場面における発話の分散と性別の割合—" 日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集, 125. 2014/7/ 北海道大学

Ken Fujiwara; Mao Xinhua; Masanori Kimura; Yukiko Iso; Ikuo Daibo 2015 Improving Group Performance: Equality in Utterances and the Proportion of Females to Males
"SPSP2015 16 Annual Meeting Poster Session G - Nonverbal Behavior G157 28, Februray, 2015 6:15 PM - 7:45 PM"

Ken Fujiwara and Ikuo Daibo 2015 "Evaluating interpersonal synchrony with an automated method: Using spectrum analysis toward an unstructured conversation situation"
"SPSP2015 16 Annual Meeting Pre-Conference - Nonverbal Behavior 26, Februray, 2015

太刀川弘和・相羽美幸・遠藤剛・白鳥裕貴・福岡欣治・松井豊・朝田隆 2014.3.21 自殺念慮と対人関係—対人関係欲求質問票 (INQ-12) を用いた検討— 第 33 回日本社会精神医学会プログラム・抄録集, 83.
東京：学術総合センター（一橋大学一橋講堂）

相羽美幸・太刀川弘和・松井豊・福岡欣治 2014.7.26 自殺念慮と自殺の対人関係理論 日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集, 241.
札幌：北海道大学

福岡欣治 2014.7.27 友人からのネガティブサポートと失敗経験後の目標達成行動 日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集, 327.
札幌：北海道大学

愈 善英・松井豊・太刀川弘和・相羽美幸・遠藤剛・福岡欣治・土井永史・朝田隆 2014.7.26 一般成人の家族に対するストレス開示抑制態度と抑うつとの関連 日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集, 372.
札幌：北海道大学

田中恵子・中村健壽・福岡欣治 2014.8.25 医事課職員における職務ストレスとバーンアウト傾向—患者接遇への注目を背景として— 日本医療秘書実務学会第 5 回全国大会プログラム・要旨集, 32-35.
倉敷：川崎医療福祉大学

福岡欣治・中村健壽・田中恵子 2014.8.31 医事課職員における上司および同僚のサポートとバーンアウト、患者・家族対応との関連性 日本応用心理学会第 81 回大会発表論文集, 21.
名古屋：中京大学

高橋尚也・安藤清志・福岡欣治・Rie Ju-Il・Yeon Goo-Cheong・松井豊・井上果子・畑中美穂 2014.9.6 韓国におけるジャーナリストの惨事ストレスの実態 日本グループ・ダイナミックス学会第 61 回大会発表論文集, 80-81.

東京：東洋大学

福岡欣治 2014.9.11 友人のサポートと大学生のレポート課題への取り組み—知覚されたサポート、実行されたサポートの効果 日本心理学会第 78 回大会 3PM-1-022

京都：同志社大学

福岡欣治 2014.10.26 大学生の性同一性障害に対する経験と認識—身体障害、精神障害との比較から— 中国四国心理学会第 70 回大会プログラム, 14.

東広島：広島大学教育学部

福岡欣治 2014.11.1 大学生の SNS 利用と精神的健康—SNS 利用時の肯定的および否定的経験に注目して— 日本健康心理学会第 27 回大会 P1-08A

沖縄：沖縄科学技術大学院大学

福岡欣治 2014.12.13 保育園児をもつ母親の子どもへの働きかけと、子どもの社会的行動—子育てにおけるサポート源との関連を含めて— 岡山心理学会第 62 回大会

岡山：中国学園大学

高垣明日香・福岡欣治 2014.12.13 両親同士の関係の良さは、大学生の友人関係と関連するか—社会的スキルおよび自尊感情を介した影響と、その男女差— 岡山心理学会第 62 回大会

岡山：中国学園大学

田中恵子・中村健壽・福岡欣治 2015.2.22 医事課職員におけるバーンアウト 日本医療秘書学会第 12 回学術大会抄録集, 36.

名古屋：名古屋国際会議場

Horike, K. 2015 Revision of sustainable mind scale. 17th European Conference of Personality.

(2014 July, Lausanne, Switzerland.)

堀毛一也 2015 大震災後の心的成長と、サスティナブルな心性・行動および主観的

well-being の関連について 日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集(平成 26 年 8 月、北海道大学)

堀毛一也・堀毛裕子 (2014) 社会的逆境からの精神的回復・成長資源に関する研究(1) 調査の概要 日本パーソナリティ心理学会第 23 回大会発表論文集(平成 26 年 10 月、山梨大学)

堀毛裕子・堀毛一也 (2014) 社会的逆境からの精神的回復・成長資源に関する研究(2)

Sense of Coherence の視点から 日本パーソナリティ心理学会第 23 回大会発表論文集 (平成 26 年 10 月、山梨大学)

池間愛梨(関西国際大学)・桐生正幸 「大阪府における子どもに対する性的前兆事案を誘発する環境要因の検討」日本犯罪心理学会第 52 回大会(早稲田大学) 2014.9.6~9.7

桐生正幸「悪質クレマーの検討」日本犯罪心理学会第 52 回大会(早稲田大学) 2014.9.6~9.7

高橋幸子・桑原裕子・松井豊 (2014). 被災自治体職員の被災 2 年 4 か月後のメンタルヘルス 日本心理学会第 78 回大会(同志社大学)

松尾藍・松井豊 (2014). 日本における社会的ステレオタイプの実態とその分類 日本社会心理学会 第 55 回大会 (北海道大学)

小林麻衣子・白岩祐子・唐沢かおり・松井豊 (2014). 犯罪被害者遺族の視点から見た有用なサポート 日本社会心理学会 第 55 回大会 (北海道大学)

桑原裕子・高橋幸子・松井豊 (2014). 東日本大震災で被災した自治体職員のメンタルヘルス ―2年4ヶ月後の継続調査から― 日本社会心理学会 第 55 回大会 (北海道大学)

前田具美・藤野紀子・松木敦志・松井豊 (2014). 職場への土産購入を規定する要因について 産業・組織心理学会第 30 回全国大会 (北海学園大学)

桑原裕子、高橋 幸子、松井 豊：東日本大震災による自治体職員の震災関連業務とメンタルヘルス2 ―2年4ヶ月後の調査から―、日本トラウマティック・ストレス学会第 13 回大会、2014

水野剛也、「日系アメリカ人とノーマス・メディア、ジャーナリズム研究 『日本人』 研究者が開拓すべき『広大な未踏地』」、メディア史研究会、日本大学、2014年1月25日。

水野剛也、「日系アメリカ人とノーマス・メディア、ジャーナリズム研究 『日本人』 研究者が開拓すべき『大きなすき間』」、『マイグレーション研究会会報』第9号 (2014年5月10日) : 10~11。

Kimiaki Nisida 28th Interenational congegss of applied psychology Poster session

西野理子 家族社会学会第3回家族パネル研究会 (2015年2月22日、東洋大学)
「夫婦関係の推移をとらえる試み」

尾崎由佳 1・後藤崇志 2・3・小林麻衣 4・楠見孝 2 (1 東洋大学社会学部・2 京都大学教育学研究科・3 日本学術振興会特別研究員・4 東洋大学人間科学総合研究所) 接近的・回避的欲望に関する調査 (3) : 各欲望の遂行頻度と制御焦点・BIS/BAS の関連 【ポスター発表】 9月11日 日本心理学会第78回大会

戸梶亜紀彦「動機づけ維持のためのレジリエンス向上に関する検討 (1)」日本社会心理学会第55回大会発表論文集, 272, 2014年7月27日 (北海道大学)。

戸梶亜紀彦「動機づけ維持のためのレジリエンス向上に関する検討 (2) ―レジリエンスを維持するメカニズムについて―」日本認知科学会第31回発表論文集(CD-ROM), 2014年9月20日 (名古屋大学)。

8. その他

角山 剛

1) 「モチベーション・マネジメント」 2014.10.22-2014.12.24 日本オープンオンライン教育推進協議会 (JMOOC) オンライン上の無料大学講座 4 週 (全 24 回)

2) 誠信心理学辞典 新版 2014.9 誠信書房

松井 豊

1) 松井豊 2014 惨事ストレスの対応方法と産業医の役割について 平成 25 年度産業医研修会一講演集一 (編) 平成 25 年度産業医研修会一講演集一88-120.

- 2) 2014年9月 日本産業衛生学会産業看護部会 ポスター優秀賞
(佐藤左千子・田久保尚子・小峰慎吾・松井豊 2014 就労中のメンタルヘルス不調者に対応する管理監督者の心理的負担 日本産業衛生学会 第24回産業医・産業看護全国協議会)

西田公明

- 1) DVD「カルト〜すぐそばにある危機〜」制作の監修

西野理子

- 1) 国際学会大会にてセッションをコーディネート：
第18回国際社会学会大会 XVIII ISA WORLD CONGRESS OF SOCIOLOGY 横浜大会（2014年7月17日）
以下のテーマセッションのコーディネイタを担当（立命館大学の筒井淳也教授と共同）
Panel Data Analysis of Families Worldwide
- 2) 学会大会にてセッションをコーディネート・司会：
第24回日本家族社会学会大会 東京女子大学（2014年9月7日）
以下のテーマセッションのコーディネイタと司会を担当
テーマセッション「ライフイベントと家族：NFRJ-08Panelによる分析」

尾崎由香

- 1) 学会大会にてセッションをコーディネート・司会：
日本心理学会第78回大会 【公募シンポジウム】大会3日目 9月12日
日常生活のセルフ・コントロールを探る——経験サンプリング法を通じて
Investigating self-control in everyday life: The usefulness of experience-sampling method
企画者・司会：尾崎由佳（東洋大学社会学部）
話題提供：
Wilhelm Hofmann（Department of Psychology, University of Cologne）
小林麻衣（東洋大学人間科学総合研究所）
後藤崇志（京都大学大学院教育学研究科・日本学術振興会）
指定討論：
北村英哉先生（関西大学社会学部）
野村理朗先生（京都大学大学院教育学研究科）

須田木綿子

- 1) 須田木綿子(2014) 福祉 NPO の役割と課題 日本社会福祉学会事典編集委員会編『社会福祉学事典』：582-583. 丸善出版.
- 2) 須田木綿子(2014) 論文執筆・投稿ガイドライン日本社会福祉学会事典編集委員会編『社会福祉学事典』：642-643. 丸善出版.
- 3) Yuko Suda (2014)“Japan’s proposition of civil society and the Japan Welfare Sociology Association.” In, Messages to the World. Circulated in the VIII ISA World Congress of Sociology, July 13-195, Yokohama, Japan. The Japan Welfare Sociology Association (Ed.) A Challenge of Japan’s Welfare Society. (共著) July, 2014. Circulated in: VIII ISA World Congress of Sociology.(CDにて配布されたので、担当頁は特定不可。福祉社会学研究, Vol.12 に転載予定)
- 4) 須田木綿子(2014)「営利・非営利組織の役割の再検討」『提言 社会的包摂：レジリエントな社会のための政策』（共著）（査読あり）日本学術会議社会学委員会額・経済学委員会合同 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会（担当頁:12-18）
- 5) 須田木綿子(2015)「ポスト福祉国家」時代の介護制度とサービス事業者（単著） 生活福祉研究（2015年3月刊行予定）

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

〔研究員〕

安藤 清志（東洋大学社会学部教授）〔統括責任者〕
大島 尚（東洋大学社会学部教授）
堀毛 一也（東洋大学社会学部教授）
久保 ゆかり（東洋大学社会学部教授）
戸梶 亜紀彦（東洋大学社会学部教授）
西野 理子（東洋大学社会学部教授）
山本 須美子（東洋大学社会学部教授）
須田 木綿子（東洋大学社会学部教授）
桐生 正幸（東洋大学社会学部教授）
水野 剛也（東洋大学社会学部教授）
加藤 司（東洋大学社会学部准教授）
尾崎 由佳（東洋大学社会学部准教授）

〔客員研究員〕

小澤 康司（立正大学教授）
西田 公昭（立正大学教授）
松井 豊（筑波大学教授）
大坊 郁夫（東京未来大学教授）
角山 剛（東京未来大学教授）
福岡 欣治（川崎医療福祉大学准教授）
谷口 尚子（東京工業大学准教授）

〔研究支援者〕

高橋 幸子（東洋大学）
兪 善英（東洋大学）

〔リサーチ・アシスタント〕

陸 英善（東洋大学大学院社会学研究科）